



多量の旧石器が発見された原田遺跡(奥出雲町)の発掘風景

火山灰は短時間で降りつもり、地面をすばやくおおうために、その下からは、しばしば土器や石器が見つかることがあります。

斐伊川中流の尾原ダムの建設工事が行われている時に発掘調査された原田遺跡(奥出雲町)では、約1万6,000年前の三瓶山の火山灰の下から、たくさんの石器がみつかりました。

また、神戸川中流の志津見ダムの工事で発掘された板屋Ⅲ遺跡(飯南町)では、縄文時代に噴出した三瓶山の火山灰層が3層見つかり、噴火した時代と縄文土器の形の変化との関係が詳しく調べられています。

約4000年前の火山灰層

約5500年前の火山灰層

約1万6000年前の火山灰層



三瓶山の火山灰層

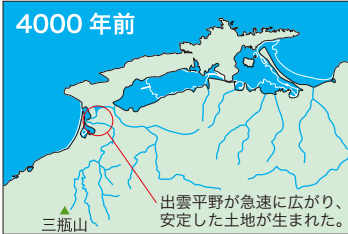
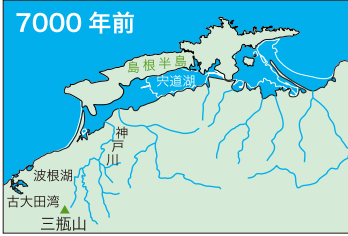
火山灰層は地層の時代を知る有力な手がかりになります。多くの火山灰の時代が分かっている、遺跡の調査などに有効です。



約1万6000年前の三瓶山の火山灰の下から見つかった旧石器。

❗ 三瓶山の噴火を目撃した旧石器人や縄文人がいたはずだよ。

●古代出雲と三瓶山



弥生時代から古墳時代の出雲地方は、大きな勢力を持った地域だったと考えられています。それは、出雲神話や、多量に出土した銅剣や銅鐸などから推定されています。

出雲平野には、弥生時代の集落の遺跡がたくさんあり、古代出雲の中心地のひとつと考えられています。その集落の多くは、約4,000年前に三瓶山が噴火した時に、神戸川が運んだ火山灰が堆積してできた地盤の上に作られています。三瓶山の噴火によって、古代出雲の人々が暮らしやすい安定した土地が生まれたのです。

●大田市の縄文遺跡・弥生遺跡

大田市は縄文・弥生時代の遺跡は多くありません。しかし、山陰自動車道の建設工事にもなって、次々にこの時代の遺跡がみつかってきています。

三瓶山のふもとでは、古くから人々が暮らしていました。その歴史は、少なくとも、およそ1万年前にまでさかのぼることができます。

三瓶山の東には神戸川が流れています。その川岸にある板屋Ⅲ遺跡の発掘調査では、三瓶山の火山灰層の上下からたくさんの土器や石器が発見されていて、およそ1万年も前から、人々が暮らしていたことがわかっています。三瓶山の噴火に驚いて逃げた人もいたかも知れません。しかし、この遺跡では、噴火が終わってしばらくすると、再び人々が暮らし始めたようです。また、板屋Ⅲ遺跡では、イネの実(粳)の跡がついた3,000年前頃の土器もみつかっていて、縄文時代が終わりに近づく頃には、イネを育てていたこともわかっています。

大田市内でも、縄文時代の遺跡がいくつか見つかっています。三瓶山のすぐふもとで暮らしていた人もいたことでしょう。また、奥出雲町では、三瓶山の火山灰の下から2～3万年も前の旧石器が見つかっています。

短い時間の間に広い範囲に降る火山灰は、遺跡の時代を知る手がかりです。今後も、三瓶山の火山灰をきっかけに、歴史に関する新発見があるかも知れません。



いなほ
稲穂が黄金色に輝く山すその水田。山すそに広がるゆるやかな土地(西の原、北の原、東の原)は、水がない場所は牧草地や畑に、川があって用水を引くことができる場所は水田に使い分けられています。



さんるく
三瓶山麓では牧畜が盛んで、乳牛と肉牛(繁殖牛)が飼育されています。西の原などでは繁殖牛が放牧されています。



ど
ソバの花。ソバは水分が少ない火山灰土壌でも収穫でき、昔から盛んに栽培されてきた三瓶山の特産品のひとつです。

三瓶山の山すそには、火山灰などがたまってできた傾斜がゆるやかな土地が広がっています。この土地は、水田や牧草地、畑などに使われ、三瓶町と山口町は農業が盛んな地域です。江戸時代以来の歴史がある牧畜、稲作とソバの栽培が盛んです。

? 土地の使い分けを地図や空中写真で確かめてみよう。

●大田市の地域別の田・畑・樹園地広さ

水田	(単位：アール)	畑	(単位：アール)	樹園地	(単位：アール)
久手	13,646	三瓶	6,578	長久	1,010
三瓶	13,142	富山	3,135	久利	531
長久	10,885	山口	2,109	鳥井	530
川合	8,507	大代	1,774	三瓶	512
富山	7,605	川合	1,640	久手	332

*大田市統計書平成24年版より。この統計書の「佐比売」分を上の上の表では「三瓶」として表記しています。

輝く三瓶
ブランド

①

そば



明治時代に京都で出版された「蕎麦誌」には、石見国が全国のソバ産地のひとつに数えられ、「三瓶山のものが良い」と記されています。

輝く三瓶
ブランド

②

わさび



ワサビも昔からの三瓶山の特産品です。大正時代には、全国有数の生産量をほこっていました。現在も、高品質のワサビが生産されています。

農業は、観光業とともに三瓶山地域の主要な産業です。大田市で最も農業が盛んな地域のひとつで、とりわけ畜産業が特徴です。畜産業の歴史は、江戸時代の前半までさかのぼることができ、17世紀に大田市川合町に置かれた吉永藩が、産業を振興させる方策のひとつとして三瓶山での牛の牧畜を進めたと伝わります。以来、現在にいたるまで、山すそを中心に牧畜が行われ、放牧によって生まれた草原の風景は三瓶山の大きな特徴です。現在は、乳牛と肉牛の飼育が行われ、牛乳の大部分は広島へ出荷されています。肉牛は繁殖させて子牛を出荷する形が中心で、西の原と東の原では放牧が行われています。

畜産業以外では、ソバとワサビの栽培が特徴です。いずれも、明治時代から大正時代には全国的に知られた産地でした。現在も、ソバとワサビは三瓶山地域の特産品です。山すそのあちらこちらにソバ畑があり、寒暖差が大きな気候のおかげで香りの良いソバが収穫されます。このソバを使ったそばの専門店が数店舗あります。ワサビは、安定的にわき出る冷たいわき水を利用して栽培されており、高級食材として出荷されています。水田も多く、寒暖差のおかげで良質な米を産出します。

11

三瓶山の観光



キャンプ風景(北の原キャンプ場)

三瓶山は、観光地としての一面を持っています。登山などのアウトドアレジャーと、三瓶温泉、三瓶自然館が集客の中心で、年間に約60万人が県内外から訪れます。

●●●●● 三瓶山登山 ●●●●●



男三瓶山の山頂



室ノ内の紅葉

三瓶山には何通りもの登山道に加えて、観光リフトがあり、いろいろな登り方ができます。登山の途中では様々な草花をみることができ、山頂からの景色も抜群です。秋に色づく室ノ内の紅葉など、四季おりおりの自然景観は登山愛好者にも人気があり、関西や九州など、遠方から登山に訪れる人もあります。

? 三瓶山の魅力を1つだけ紹介するならどんなこと?

●湯量 島根県 No1・三瓶温泉



三瓶温泉は、自然にわき出る湯の量がとても多く、島根県では、わき出る量が一番多い温泉です。この湯を利用した宿は、三瓶山の観光の魅力のひとつです。

島根県の温泉のわき出る量 (1分間)

	自然にわく量	ポンプでくむ量
1. 三瓶温泉	4,414 <small>リットル</small>	-
2. 玉造温泉	504 <small>リットル</small>	1,044 <small>リットル</small>
3. 六日市温泉	1,038 <small>リットル</small>	499 <small>リットル</small>

*島根県の温泉利用状況報告書（平成21年）

●昔のにぎわい

昭和30年代から40年代の三瓶山は、全国的なレジャー・ブームの追い風もあり、おいににぎわいました。温泉、ハイキング、キャンプ、登山にくわえ、冬は多くの方がスキーに訪れました。広島からの定期バスや、専用スキー列車が九州から運行されるほどのにぎわいでした。



浮布池のそばにあった遊園地(和田為夫氏提供)

三瓶山は、世界遺産・石見銀山遺跡とともに大田市を代表する観光地でもあります。三瓶山の観光としては、登山やキャンプなどのアウトドアレジャー、三瓶温泉をはじめとする温泉、三瓶自然館や三瓶小豆原埋没林の見学、そば等の食などがあります。また、山野草や紅葉の鑑賞、サイクリングやウォーキングなどのスポーツ、ドライブやオートバイのツーリングで訪れる人も少なくありません。

その他、宿泊研修や合宿で国立三瓶青少年交流の家を利用する学校団体も多くあります。

近年は、地域活性化につながるとして、観光業への期待が全国的に高まっています。三瓶山には、大田市以外の地域からも人が訪れるような見どころや楽しみ方があり、それを体験できる施設にも比較的恵まれています。全国的に知られている石見銀山と出雲大社からも近いという利点もあります。一方で、これらの恵まれた条件を十分に活かすことができていない面もあります。観光客をもてなす工夫や、情報を広く発信する工夫次第で、三瓶山は今以上に多くの方が訪れる可能性があるかと期待され、観光振興に向けた様々なとりくみが行われています。

12

陸軍演習地の歴史



砲弾の着弾点を確認する「かんてきょう監的壕」が東の原の一角にひっそりと残ります。

明治時代から、第二次世界大戦が終わった昭和20年まで、三瓶山では日本陸軍の演習が行われました。東の原や西の原には、当時の施設のなごりがあります。



西の原での演習風景。右端に馬に引かれた野砲やほうが写っています。草原で砲撃訓練などが行われました。



志学にあった兵舎。斜面に階段状に並んでいました。現在は志学小・中学校が建っている場所です。

! 三瓶山で戦争のための訓練がおこなわれていたよ。

●三瓶山の演習地と戦争の歴史

明治19年 (1886年)	広島第五師団野砲第五連隊が射撃演習を実施 <small>しだん やほう れんたい しゃげきえんしゅう</small>
明治21年 (1888年)	陸軍が演習地として土地の買収をはじめ <small>ぼいしゅう</small>
明治27年 (1894年)	日清戦争(～明治28年) <small>にっしん</small>
明治37年 (1904年)	日露戦争(～明治38年) <small>にちろ</small>
明治41年 (1908年)	現在の志学小・中学校一带に兵舎が建設される
大正3年 (1914年)	第一次世界大戦(～大正7年)
昭和14年 (1939年)	第二次世界大戦がはじまる
昭和20年 (1945年)	第二次世界大戦が終わり、演習地の歴史が終わる
昭和21年 (1946年)	三瓶開拓団が旧兵舎に入植 <small>かいたくだん</small>

約60年間にわたって、演習地として使われたことは、三瓶山地域の現在の景観や農業に間接的に影響しています。

明治時代から、第二次世界大戦が終わった昭和20(1945)年まで、三瓶山は日本陸軍の演習地として利用された歴史があります。演習地とは、ほうげき砲撃訓練など、戦場で戦うための訓練を行う場所のことです。現在の大田市立志学小・中学校のあたりに、兵士が寝泊まりする兵舎があり、浜田や広島を拠点としていた部隊が訪れて訓練を行いました。山に向けて大砲や機関銃を撃つ訓練も行われ、観光リフトがあるスキー場跡の斜面では、戦後も地面の下から銃弾が出てくることがあったそうです。西の原と東の原の片隅には、コンクリート製の頑丈なかんじょう かんてきごう監聽壕の跡が今も残っています。

広い範囲が演習地として軍によって管理されていたため、民間人は自由に利用することができませんでした。演習地には民間の建物などが建てられず、西の原や東の原は草原のままだったのです。第二次世界大戦後に、陸軍が演習地として所有していた土地は開拓地として民間に売られ、新たに牧場などに利用されるようになりました。草原が広がる三瓶山の風景は、銃砲の音が響いた歴史を秘めているのです。



三瓶山にむかって弧を描いて延びる園の長浜。出雲市大社町奉納山から。

三瓶山は、出雲に伝わる「国引き神話」に登場します。これは、海のむこうから、園の長浜(出雲市西部の海岸)を綱にして国を引き寄せ、三瓶山を杭にしてつなぎ止めたという物語です。この神話は、「出雲國風土記」に記されています。

●三瓶山の名前にまつわるいつたえ

三瓶山の名前の由来ははっきりしたことがわかりません。出雲國風土記の時代(奈良時代)には佐比売山と呼ばれていました。それがいつ、どうして三瓶山に変わったのでしょうか。奈良時代に朝廷の命令で、多くの地名の漢字が変えられたことがあり、その時に変わったとも言われますが、さだかではありません。

昔話には、大きな地震で山が崩れ、3つの瓶が飛び出したので三瓶山と呼ばれるようになったというユニークなものもあります。また、山の形が、逆さまにふせて置いた瓶のおしりに似ているから、とも言われています。



石見地方で盛んに作られた大瓶の「はんどう」。



仙ノ山(大森町)から見た三瓶山。

？ 三瓶山の昔話はまだほかにもあるよ。調べてみよう。

●2つの池の昔話



浮布池

昔、池の近くに住んでいた若い娘が、青年に姿を変えた大蛇に恋しました。あるとき、弓の名人が池のほとりにいる娘と大蛇を見つけて、弓矢で大蛇を射抜きました。大蛇は池に逃げ、娘も後を追って飛び込みました。その後、娘は戻らず、着物の布だけが浮いてきました。それ以来、池は浮布池と呼ばれるようになりました。



姫逃池

長者が原(北の原付近)に住む長者には娘がいました。この娘を嫁にしたいと思った山賊が、長者の家に押しかけて暴れていると、娘の恋人が助けに来ました。しかし、恋人の若者は姫逃池のほとりで山賊に切り殺され、悲しんだ娘は池に身を投げてしまいました。池に咲くカキツバタは娘と若者の化身といわれます。

およそ1,300年前に書かれた「古事記」や「日本書紀」には、より古い時代からの言い伝えなどが神話として記されていて、日本の歴史を知る手がかりになっています。神話には出雲にかかわることが多く記されていて、古代の出雲が大きな力を持った地域だったと想像されます。その出雲には同じ時代に書かれた「出雲國風土記」が伝わります。出雲國風土記のはじめの部分に、海の向こうから国を引き寄せて出雲の国を大きく広げたとする国引き神話が書かれています。

この神話では、三瓶山が「佐比売山」の古名で登場し、国を引いた綱をつなぎ止めた杭とされています。男三瓶山の山頂からは、引いてきた国とされる島根半島がよく見えます。大社港から道の駅「キララ多伎」のあたりまで続く園の長浜は、国を引いた綱にみたとされています。よく晴れた日には、もう一本の杭とされた大山(鳥取県)も見え、国引き神話の舞台を一望できます。反対に、出雲や松江からも三瓶山の姿を見ることができ、出雲国と石見国の境ということもあって、三瓶山は昔から人々の注目を集める存在だったと思われます。
